



第3編2部
分野別計画

第2章

人と文化を
未来につなぐまちづくり

教育・文化

- 1 学校教育
- 2 スポーツ
- 3 文化芸術
- 4 生涯学習

1

学校教育

めざす将来の姿

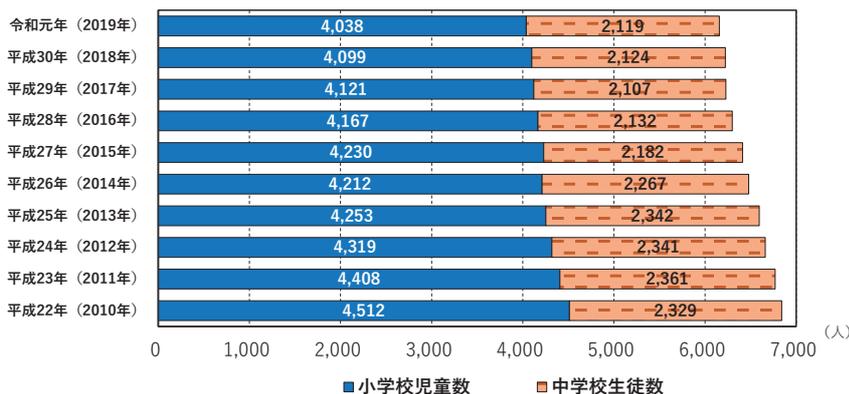
- ◆感性豊かで、命、人を大切にする、心身ともに健康な子どもが育っています
- ◆自分のよさを生かし、蒲郡の人や地域とともに生きる子どもが育っています

指標	現状値 (2020)	中間値 (2025)	目標値 (2030)
授業がわかり、楽しく学習している児童生徒の割合	83.9%	85.0%	90.0%
楽しい学校生活を送っている児童生徒の割合	88.3%	90.0%	95.0%
コミュニティ・スクール実施状況	0%	50.0%	100%

現状と課題

- ◆少子高齢化・核家族化の進行や、地域社会のつながりの希薄化、経済的格差など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、それに伴う諸課題への対応が求められています。
- ◆グローバル化や情報化の進展は、社会に様々な変化をもたらしており、この変化に対応した教育とその環境整備が求められています。
- ◆スマートフォンの普及に伴うネットトラブルの増加、いじめや不登校の問題とともに、生活環境の多様化による問題の複雑化が一層進み、解決への困難さが増しています。
- ◆本市の学校は建築後 50 年以上経過した校舎も多く、施設の老朽化が進んでいます。
- ◆子どもたちが基礎的・基本的な知識や思考力・判断力・表現力等の確かな学力を身に付け、スポーツや文化芸術等の様々な活動・体験を通じ、健全で思いやりのある心を育むことのできる学びが求められています。
- ◆子どもたちや学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、子どもたちや地域の未来を創るためには、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要です。
- ◆すべての児童・生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に全力で取り組むことができる教育環境づくりや支援体制を構築する必要があります。
- ◆生活環境や自然環境の変化、ICT 教育の進展に対応した施設づくりが求められます。

児童・生徒数の推移





施策の内容(主な取組)

1 子どもの夢を育む教育の推進

- ・子どもたちが将来自立した社会人として適切に判断・行動する力を持てるよう、確かな学力を身に付けるとともに命の大切さや思いやり、やさしさ、規範意識等について考える道徳・人権教育を推進します。
- ・子どもたちが多様な国・地域の文化や考え方に触れられるよう、外国人講師を配置し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際理解教育や多文化共生教育を推進します。
- ・子どもたちが、自分の将来を考えたり、社会参画への意識を高めたりする機会とするため、職場体験などの体験学習の機会の充実を図ります。
- ・家庭や学校などでの日々の生活や指導を通じて、子どもたちが自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身に付けられるよう食育の充実を図ります。
- ・子どもたちの学力・体力の向上を図るため、充実した教職員研修や外部講師の派遣などにより、教師の指導力の向上と授業改善を図ります。

2 社会に開かれた学校文化の創造

- ・学校・地域・家庭が連携・協働したより良い教育を実現するため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の取組を充実するとともに、地域や学校の特性を生かした特色ある学校づくりを推進します。
- ・多様化・複雑化する教育課題に組織的に対応するため、学校評価等の活用の充実を図り、課題や対策の協議を通して、学校・家庭・地域の連携・協働体制を強化します。
- ・子どもの安全を確保するため、教職員の危機管理・防災に対する意識を向上させるとともに、学校、家庭、地域、関係機関との連携による安全教育・防災教育を推進します。

3 子どもの学びを支える教育の推進

- ・多様な特性や背景を持った一人ひとりの子どもに配慮し、個々の能力を最大限に伸ばすことができるよう、特別支援教育や外国人児童生徒への教育支援、少人数学級の設置など、それぞれの学びの機会の確保に努めます。
- ・子どもたちの読書習慣や情報活用能力を高められるよう、学校図書の実質や支援員などとの連携による授業づくりを支援します。
- ・子どもたちが心地よい学校生活を過ごせるよう、いじめ問題や不登校などの悩みについての子どもや保護者への相談・支援体制の充実を図ります。
- ・小規模校に関する諸課題の解決のため、教育上・学校運営上の効果等も考慮し、個々の学校にとって最適な手法を検討します。

4 学校教育施設の充実

- ・子どもたちが安全で快適な学校生活を送ることができるようトイレの洋式化や特別教室の空調設備の設置を行い、ユニバーサルデザインへの配慮やライフサイクルコストを意識した施設・設備の計画的な整備を進めます。
- ・様々な情報をもとに、主体的に問題を発見・解決することができるようICT機器の充実を図るとともに、学習・生活の中でICTを手段として活用する力や情報モラルの向上を図ります。

関連する計画等

計画名	計画期間
蒲郡市学校教育ビジョン計画	2018～2022 年度
がまごおり ICT アクションプラン	2020～2023 年度
蒲郡市小中学校規模適正化方針	2021 年度～

スポーツ

めざす将来の姿

- ◆市民の一人ひとりがスポーツを身近に楽しみ、健康に過ごしています
- ◆スポーツを通じた交流により、まち中に元気な声援が響きあっています

指 標	現状値 (2020)	中間値 (2025)	目標値 (2030)
週1日以上スポーツをする 18歳以上の割合	22.3%	40.0%	65.0%
スポーツ施設利用者数	432,962人 (2019)	500,000人	550,000人
スポーツ施設の整備に関する満足度	-0.18	0	0.20

現状と課題

- ◆子どもたちは、小学校部活動の廃止、中学校部活動の選択制への移行に加え、学校外の学習時間の増加等により、スポーツをはじめとした体を動かす時間・仲間が減少しており、スポーツ活動ができる場の提供が求められます。
- ◆大人は近年の健康への関心の高まりに伴い、ランニングやサイクリング等のスポーツに取り組む市民が増えている反面、働く世代の中にはスポーツをする時間の確保が困難な市民もいます。スポーツは健康づくりや体力の維持向上を図ることに加え、生きがいつくり、仲間づくり、地域コミュニティづくり等の効果が期待できるため、生涯にわたって継続することができるスポーツ活動の推進に取り組むことが必要です。
- ◆東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーを次代に引き継ぐとともに、関係機関の連携による第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の成功に向けた取組を推進することにより、さらなるスポーツの普及が期待されています。
- ◆スポーツ協会、スポーツ少年団が幅広い競技分野の取組を行っていますが、スポーツ協会の会員数は減少傾向であり、より強固な組織としてスポーツの振興に寄与していくことが望まれます。
- ◆スポーツ施設の多くは老朽化が進んでおり、適正な日常の管理と計画的な改修が必要です。

スポーツ施設の利用状況

(人)

	平成27年度 (2015年)	平成28年度 (2016年)	平成29年度 (2017年)	平成30年度 (2018年)	令和元年度 (2019年)
体育センター	188,535	181,206	189,138	182,123	153,380
公園グラウンド	33,924	34,540	27,350	34,731	30,497
文化広場	27,315	26,023	30,658	28,658	26,019
学校体育施設	98,336	97,818	100,351	98,088	88,138
その他	115,155	110,427	119,794	124,528	134,928
合計	463,265	450,014	467,291	468,128	432,962

(注) 令和元年度(2019年度)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、約1カ月間スポーツ施設の利用を中止。



施策の内容(主な取組)

1 生涯スポーツの推進

- ・体力や障がいの有無に関わらず、市民がスポーツを楽しめる社会とするため、子どもから高齢者までの多世代が楽しめるニュースポーツの普及に努めるとともに、様々な種目をそれぞれのレベルに合わせて参加できる総合型地域スポーツクラブの創設を官民協働でめざします。
- ・誰でも気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツ協会主催のスポーツ教室等の情報を積極的に発信します。

2 競技スポーツの推進

- ・子どもたちの夢や憧れを応援するため、様々なスポーツ大会の誘致やトップアスリートの指導機会を設けることなどにより、様々な経験の場を提供し、より高いレベルをめざした活動を応援します。
- ・スポーツ少年団活動をはじめとした子どもを取り巻くスポーツ環境の充実を図り、運動をする機会が減少している子どもたちの体力づくりや仲間づくりに効果が期待できる競技スポーツへの参画を促進します。

3 スポーツ関係団体の育成

- ・スポーツ習慣の定着のため、生涯スポーツ、競技スポーツの推進に欠かせない指導者の育成と資質向上に努めます。
- ・スポーツ協会等のスポーツ関係団体の自主的な活動を支援し、相互協力を図りながら、スポーツの普及及び指導者の育成等を促進します。

4 スポーツ施設の充実等

- ・スポーツ施設の構想を検討し、計画的に整備を進めることで、年齢や体力さらには障がいの有無に関わらず、生涯にわたり快適な環境で安全にスポーツを楽しめる環境を充実させます。
- ・近隣市町との相互施設利用や、民間スポーツ施設との連携の可能性について検討します。
- ・学校体育施設の利用手続きの簡素化を図り、気軽に利用できる仕組みを整えます。
- ・地域の健康づくりやスポーツ活動を行うための拠点づくりとして、各地域においてニュースポーツに気軽に取り組めるよう、備品・用具の充実を図ります。
- ・スポーツ施設の有効活用及び交流人口の拡大のため、様々なスポーツ大会の誘致やスポーツ合宿をはじめとしたスポーツツーリズムの振興を図ります。



三河湾健康マラソン



海陽多目的広場（スポーツ少年団活動）

関連する計画等

計画名	計画期間
蒲郡市生涯スポーツ推進計画	2001年度～

第1編

第2編

第3編

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第4編

資料編

3

文化芸術

めざす将来の姿

- ◆誰もが文化芸術に気軽にふれる機会を持ち、活動・発表することができます
- ◆ふるさとの歴史・文化・自然に誇りを持ち、次世代へ守り伝える環境が整っています

指標	現状値 (2020)	中間値 (2025)	目標値 (2030)
文化公演事業数及び入場者数	10件 4,887人	11件 5,500人	12件 6,500人
文化財事業補助金額及び件数	1,865千円 9件	1,900千円 9件	2,000千円 10件
市民1人あたり貸出図書点数	6.0点/年	7.5点/年	9.0点/年
自然科学系企画展等開催日数及び来場者数	549日 24,620人	550日 25,000人	550日 26,000人

現状と課題

- ◆市民会館、図書館は昭和40年代に竣工し、博物館は昭和50年代に竣工した施設であるため、施設や設備の老朽化が顕著であり、改修・整備が大きな課題となっています。今後、公共施設マネジメント実施計画を踏まえ、市民が憩える魅力的な施設となるよう検討していく必要があります。
- ◆市民の文化芸術活動への意識向上及び推進を図るため、優れた芸術文化に触れる機会として質の高い文化公演の実施や文化活動を行う人材を育成する方法を検討する必要があります。
- ◆文化芸術活動は文化協会を中心に様々な分野で自主的な活動が行われています。しかし、文化協会会員の高齢化に伴う会員数の減少が課題となっています。
- ◆若年層の減少や、地域の連帯感の希薄化により、民俗芸能や伝統行事の担い手不足が懸念されています。
- ◆文化財の維持管理や補修・整備には手間や費用がかかり、文化財管理者の負担になっています。貴重な文化財を保護・継承していくため、適切な管理に対する助言や費用面での支援を行っていく必要があります。
- ◆市民の自然科学に関する意識向上のため、生命の海科学館の展示機能の充実が求められています。



市民文化祭の様子



図書館での読みきかせの様子

施策の内容(主な取組)

1 文化公演事業や企画展の充実

- ・市民文化祭や成果発表会、インターネット上での発表など、日ごろの文化活動の発表の場を提供することにより、互いに理解し合う環境と文化芸術に対する市民意識の向上を図ります。
- ・一流の文化芸術に触れる機会の増加策として、民間企業や他施設と連携した質の高い文化公演や企画展の実施を推進します。
- ・文化芸術に関する方向性を示し、文化協会をはじめ、各種団体の自主的な活動を支援するとともに、人材の育成や発掘のために各種講座やアウトリーチ事業を開催できる体制づくりをめざします。
- ・博物館においては、地域密着型の企画展や講座を充実させ、郷土への興味と理解を深めます。
- ・図書館の来館者数の増加を図るため、各種企画展や体験型の講座を開催し、多くの市民が図書館を利用して学習できる環境づくりを行います。

2 郷土の文化財の保存・活用と継承

- ・地域で長年親しまれている民俗芸能や貴重な文化財を次世代へ継承するため、保存・活用に関する助言や、保護・修繕等に対する補助金交付を行います。
- ・地域学習や将来の市史編さんに備え、市民共有の財産である郷土史料が散逸しないよう収集・保管や調査・研究活動を進めます。
- ・図書館における郷土資料の閲覧や、調べ学習が簡単に行えるようレファレンス機能の充実に努めます。

3 文化施設の機能充実

- ・図書館や博物館などの文化施設の書庫・収蔵庫、展示機能、蔵書等の充実を図り、市民の知的好奇心を満たせる環境を整えます。また、図書館の機能移転や複合化の検討を進めます。
- ・市民会館については、市民の文化交流活動をサポートできるようにホールの利用方法にあった音響・照明設備全般の改修や建替えに加え、他の施設の機能を取り入れるなどの複合化に向けた検討を進めます。
- ・生命の海科学館においては施設の機能を見直し、地域の自然に関する調査・資料収集、学習教材の充実に努め、展示や教育・学習機能、学校との連携強化を図ります。



移動美術館 団体鑑賞会の様子



生命の海科学館特別展の展示

関連する計画等

計画名	計画期間
蒲郡市生涯学習推進計画 2017	2017 年度～2021 年度

生涯学習

めざす将来の姿

- ◆生涯学習活動の応援体制により、生涯学習活動に参加する市民の生きがいくりの場となっています
- ◆地域に根ざした生涯学習活動がまちづくりへと広がっています

指標	現状値 (2020)	中間値 (2025)	目標値 (2030)
生涯学習活動に満足している割合	15.0%	17.0%	20.0%
GCSL（市民講師）の登録者数	77人	80人	85人
公民館における生涯学習活動の参加者数及びクラブ・サークル数	157,333人 345団体	159,000人 365団体	161,000人 390団体
科学館の開催講座数及び参加者数	317回 17,189人	340回 18,000人	340回 18,500人

現状と課題

- ◆本市が主催する生涯学習講座をはじめ、出前講座、科学館や公民館で開催される講座にも、多くの市民が参加しています。
- ◆市民ボランティアによる講師の派遣制度「蒲郡市文化スポーツリーダー登録制度（GCSL）」にも多くの方が登録しており、市民の自主的な生涯学習を推進するツールとなっています。
- ◆参加者、指導者の高齢化が進んでおり、参加年齢の偏りと指導者の後継確保が課題となっています。そのため、新たな層に対して生涯学習への関心を持たせることが必要です。
- ◆学習の場として開放される施設（公民館や市民会館、学校施設等）の老朽化が進んでいます。安心して学習できる場所を確保するため、施設のあり方を検討し、施設改修や設備の整備が求められます。
- ◆市民の自発的な学習活動の推進と、発表機会などを利用した地域との交流をきっかけに、地域との結びつきを強め、互助の体制を構築することが求められます。
- ◆環境問題意識が高まっていることから、自然科学に関する教養を深める機会を持つことが求められます。



幼児教室の様子



愛知工科大学での講座の様子



施策の内容(主な取組)

1 自発的な生涯学習の推進

- ・市民が生涯学習活動の第一歩を踏み出せるよう、学習ニーズの把握に努めます。
- ・公民館などを活動の拠点に市民が先生となり、互いに学び合える関係を築けるように努めます。
- ・公民館が企画・相談・支援などを提供できる体制づくりをめざします。
- ・ICT を活用したオンライン講座や生命の海科学館での最先端の科学技術に関する講座など、その時々
のニーズに合わせた学習の機会を提供し、市民の生涯学習活動の支援を図ります。

2 学校・地域・団体との連携による生涯学習活動の推進

- ・学校施設や公民館のほかにも、生命の海科学館や愛知工科大学など、地域の持つ資産を活用しつつ、
企業や地域団体とも連携した学習活動の展開を図ります。
- ・活動を通じて、世代や年齢、地域を問わず交流を深め、市民が豊かなこころを育み、地域や家庭での
教育力の向上を図ります。
- ・多種多様な講座を実施し、市民の学習機会の充実を図ります。

3 公民館を拠点とした学習機会による地域交流の推進

- ・子どもと大人が地域で一緒に学べる体制づくりとして、公民館を拠点とした学習活動を展開できるよ
うに施設の改修や設備の整備に努めます。
- ・若手指導者の育成により、学習の質の向上を図ります。
- ・公民館が地域の学習や活動拠点となることで多世代交流を生み、住民同士のつながりができることで
地域が人を育てる環境となるように努めます。

4 学習活動からまちづくりへの展開

- ・学ぶ楽しさから、学習で得た知識を生かす楽しさにつなげ、世代や地域を超えて、様々な人材と連携
した、学習活動を通じたまちづくり体制の確立をめざします。
- ・生命の海科学館による学習プログラムを通じ、将来を担う子どもたちが蒲郡の自然の豊かさや環境の
大切さを学び、郷土愛を育む機会を提供します。



公民館文化祭の様子



環境チャレンジ海での生き物採取の様子

関連する計画等

計画名	計画期間
蒲郡市生涯学習推進計画 2017	2017 年度～2021 年度
蒲郡市公民館のあり方について（公民館グランドデザイン）	2021 年度～

